

一本立ちへの正念場

「環の郷プロジェクト第4章」

平成20年度施政方針(要旨)

合併して3年 が過ぎました。

新市高島市の基礎づくりの期間とするならば、3年目はお互いの理解も深まり、さまざまな場面で「オール高島」の取り組みが進み、まさに、全市一体、市民一丸となつて、道を切り拓きはじめた年でした。お陰をもちまして、昨年11月には、地方自治法施行60周年記念の総務大臣表彰を受賞することができ、また、合併後取り組みを始めた景観行政についても、この度「高島市海津・西浜・知内地区の水辺景観」が、全国で5番目の重要な文化的景観の選定を受けることとなりました。

こうした中で迎える4年目の今年は、厳しい財政環境の中ではありますが、「新しい高島」の取り組みを加速し、本格化し、一本立

ちさせていく正念場の年であると認識しています。

さて、国においては、地方財政に大きな影響を及ぼす地方交付税を3年ぶりに増加。また、特別枠として「地方再生対策費」が創設され、約4,000億円が地方へ再配分されることになりました。これにより、総務省の試算では、2億7,900万円が当市に配分される見込みです。なお、琵琶湖水面の市町境界確定による交付税増額分7,700万円は、半分を県の共同事業に拠出し、残りの約3,850万円を、未来の高島を担う子どもたちの教育振興に充当してまいります。

一方、当市財政に大きな影響を与える滋賀県の財政は、平成20年度から3年間で計画期間とする「新たな財政構造改革プログラム」を

とする貴重な積立財源を8億5,000万円取り崩し、収支の均衡を図り、予算を編成したところであります。財政構造としては、自主財源の占める割合が34.4%と、依然厳しい状況にあり、起債償還のピークを過ぎたとはいえ、新年度も市債の償還は総額43億6,000万円に上り、義務的経費の割合は依然5割を占めております。20年度

策定し大鉈を振るわれようとしております。この結果、県の新年度予算では、県民に負担増を強いられるところであり、県立安曇川高校にかかる中高一貫校の開校時期の一方的な延期は、地元として極めて遺憾です。

当市は、行財政の一層の引き締めをはかる一方で、地域に「夢と希望と誇り」がもてる魅力的なまちづくり、すなわち「お互いさまとおかげさまが対流する「環の郷たかしま」の実現」に向けた「環の郷プロジェクト第4章」の取り組みを、皆さんのご理解と連帯の下、連携・協働で力強く進めてまいりたいと考えています。

さて、平成20年度一般会計予算では、予算総額を241億3,000万円、対前年度比0.2%決算から適用を受ける地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく実質赤字比率等の4つの指標から見ると、この当初予算段階では「財政再生団体」もしくは「財政早期健全化団体」の区分には至らないものの、引き続き執行段階での経費節減に留意して基金取り崩し額の節減に留意してまいります。

なお、県の補助率等の引き下げ

の微減で編成しました。

歳出の面では、人件費、扶助費、公債費がそれぞれ減となり、義務的経費は前年度対比で1.4%減の約119億2,000万円と改善しますが、歳出の49.5%を占め、弾力性回復はこれからです。

一方、物件費(施設の管理運営に必要な光熱水費や消耗品など)は減額を達成しましたが、施設の維持補修費の増や、後期高齢者広域連合負担金等による補助費の増により、一般行政経費は、前年度対比で4.6%増の66億6,000万円となりました。また、前年度に義務的経費の増加等により抑制を余儀なくされた投資的経費は7.5%増の約21億8,000万円に回復することとなりました。

歳入においては、市税収入は1.8%増の58億7,000万円を見

込んでおります。地方交付税は、地方再生対策費の創設、琵琶湖の面積算入ほかにより5億円の増で100億円となりました。なお、県支出金は新たな財政構造改革プログラムの影響などにより約700万円減となり、国庫支出金は各事業総額で約4,600万円増額となります。

以上、総合して、なお不足を生じるため、財政調整基金をはじめ

平成20年度に取り組み施政の大綱

(一)「高島市総合計画」基本計画の分野別

心のかよひ人びと

(教育・文化・コミュニティ)

藤樹先生の生誕400年を迎える節目の年であることから、学校教育、社会教育の両面から藤樹先生の教えを市民に普及啓発し、将来にわたつての地域づくりの理論的・精神的支柱としてまいり、取り組みを強化します。また、次代を担う青少年の学力向上と知・徳・体・食のバランスの取れた健全な成長に、最も力点をおいて取り組んでまいります。琵琶湖水面

の市町境界確定に伴う地方交付税の増額分を財源に「高島ならではの特色ある教育」の実施に努めるとともに、層の厚い「教育に特化した高島市」を市内外にアピールし、若者定住促進の呼び水にしたいと考えています。

- 〈主な事業〉
- ・ 中江藤樹生誕400年祭記念事業
- ・ マイスクール事業
- ・ (市内全小・中学校で実施)
- ・ 未就学児対象マイスクール事業
- ・ (全幼稚園・保育園で実施)
- ・ ブックスタート事業

・ マキノ、今津両中学校

特別教室棟耐震補強

・ 朽木小・中学校屋内運動場

改築事業(地域材活用)

・ AED(自動体外式除細動器)

設置事業(3か年で市内各小中学校等)

・ 学校給食業務の一部民間委託

・ 地域で育む高島こどもの宿事業

(16地域で実施)

・ 文化的景観保護推進事業の推進

(大溝城跡周辺)

・ 全国スボレク祭開催(3種目)

・ 中学生国際交流事業

・ 自治会・コミュニティ活動の支援

人が支え合う地域づくり

(保健・医療・福祉)

公立高島総合病院の建て替え問

題については、様々な角度から検討を行い、ご議論を賜ってまいりました。それらの結果を踏まえ、この度、病院の建て替え場所を現病院の南側と定め、平成22年度建設着工を目指し、新年度においては、建設費の洗い直しも含め基本設計業務を進めてまいります。

人口減少時代の時代を迎え、ますます少子高齢化が進行していく中で、これからの地域を担う若い世代が安心して子どもを産み育てられ、子どもたちが健やかに育ち、高齢者や障がい者が明るく生き生きと安心して暮らしている地域社会の構築に向けて、社会福祉協議会をはじめとする福祉関係団体、NPO等とも連携して、引き続き積極的に取り組んでまいります。

〈おことわり〉

本稿は、2月26日に開会された高島市議会平成20年3月定例会において、海東市長が提案した平成20年度施政方針を要約したものです。施政方針の全文は、市のホームページ(Web市長室)でご覧いただけます。なお、予算の概要については、次号でお知らせします。